

## シラカバから森考える

東川 専門家トークや演奏通じ

【東川】広葉樹シラカバを活用し、持続可能な森づくりを考えるサイエンスカフェ「森を育てる、利用し続ける」が、町複合交流施設「せんとびゅあー」で開かれた。北大北方生物圏フールド科学センターの吉田俊也教授のトークや、シラカバ材で作ったギターの演奏を通じて、参加者は次世代につなぐ森づくりへの関わり方を考えた。

家具職人や木材研究者らでつくる一般社団法人白樺プロジェクトの主催。17、18日に同会場で開かれた町内家具クラフト事業所が展開する「家具・クラフト市」に合わせて行った。

吉田教授は、かつて道内の森林は広葉樹が多かったが輸出用に大量に伐採され、代わりに針葉樹が植えられた歴史を紹介。道内に多くあった広葉樹のミズナ

ラは寿命が300年以上と長い分、成長が遅い。一方、寿命が約100年のシラカバは幹は細いが、育ちやすいことから「シラカバを積極的に増やし使えば、ミズナラなどを育てる時間ができる。持続可能な森づくりの鍵になる」と話した。

約30人の参加者からは「なぜシラカバはあまり使われなかったのか」「どうやって手に入るのか」など質問が相次いでいた。

(山中いずみ)



シラカバを通じて森づくりについて考えたサイエンスカフェ